安中城Ⅳ

－安中市文化センター駐車場増設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書－

2022

群馬県安中市教育委員会

序

　このたび、安中市が計画した文化センター駐車場増設事業を実施するにあたり、中・近世安中城の発掘調査を実施しました。これまで安中城では３度の発掘調査が実施されてきましたが、いずれの調査でも中・近世安中城に関連する遺構が発見されています。今回の発掘調査でも安中城本丸西側の様相が明らかとなりました。

　今後、徐々に調査が進めば安中城の全貌が明らかになることでしょう。それらの成果が地域の誇りへと還元されることを切に願っております。

　最後になりましたが、発掘調査に参加された皆様、報告書刊行に至るまでにご指導・ご協力をいただいた皆様に感謝申し上げる次第です。

令和４年３月

安中市教育委員会
教育長　竹内　徹

例言・凡例

1　本書は安中市が計画した安中市文化センター駐車場増設工事に伴う安中城Ⅳ（略称：D － 34）の発掘調査報告書である。

2　安中城Ⅳは安中市安中三丁目字西町に所在し、調査面積は約 100㎡である。

3　安中城Ⅳは安中市教育委員会生涯学習課からの委託を受け、安中市教育委員会文化財保護課埋蔵文化財係が発掘調査を実施した。

4　発掘調査および遺物整理は安中市教育委員会の直営で実施した。

5　発掘調査期間は令和３年８月 23 日から８月 27 日で、資料整理は令和３年８月 23 日から令和３年 12 月 28 日まで実施した。

6　調査組織は安中市教育委員会教育長を主体とし、発掘調査・整理作業については文化財保護課埋蔵文化財係が実施した。発掘調査・整理作業・報告書の執筆・編集は鳥居が担当した。

7　発掘調査の記録、出土遺物は安中市教育委員会が保管している。

8　報告書の凡例は安中市の通例に準じている。

9　安中城周辺の歴史・地理的環境は『安中城Ⅲ』を参照のこと

目次

序、例　言、凡　例・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1
第Ⅰ章　調査に至る経緯・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・2
第Ⅱ章　基本層序・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・3
第Ⅲ章　遺構と遺物・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・3～5
第Ⅳ章　まとめ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・6・7
第Ⅴ章　写真図版・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・7

第Ⅰ章　発掘調査の経緯

第１節　調査に至る経緯と経過

令和２年８月 26 日、安中市教育委員会生涯学習課より安中市教育委員会文化財保護課に、安中市文化センター駐車場増設事業に係る埋蔵文化財に関しての照会があった。開発予定地は、埋蔵文化財詳細分布調査等によって中・近世安中城（本丸西側）の敷地内であることが判明している。そのため、令和２年９月２日に埋蔵文化財発掘調査（本調査）を実施する必要がある旨を回答した。

令和３年３月 18 日には生涯学習課より発掘調査依頼が提出された。これを受けて本遺跡を安中城Ⅳとし、令和３年８月 23 日から８月 27 日の期間で本調査を実施し、記録保存を図ることにした。

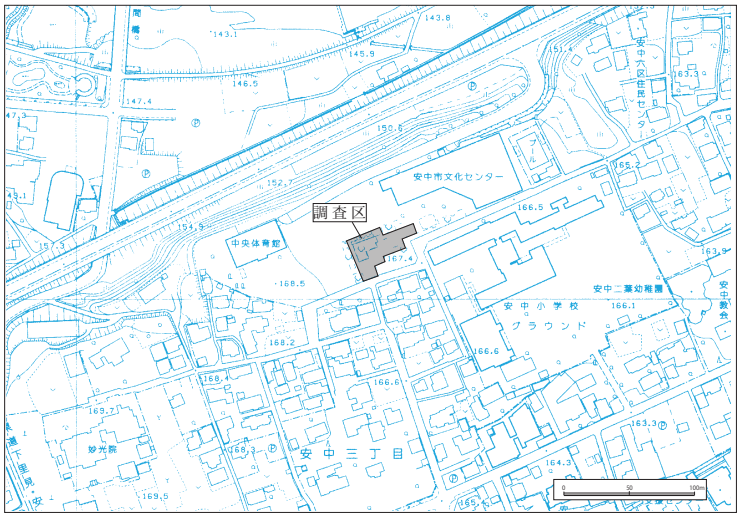
今回の開発地は文化センター駐車場の南側部分にあたる（第１図）。当該地は安中城本丸西側および本丸に隣接した敷地に該当することが安中城図から明らかであったため、当該地における中・近世安中城の様相を明らかにすることを発掘調査の主眼とした。

令和３年８月 23 日にバックホーを搬入し、表層を除去した後、１から３号までのトレンチ設定し、人力による掘削を開始した。

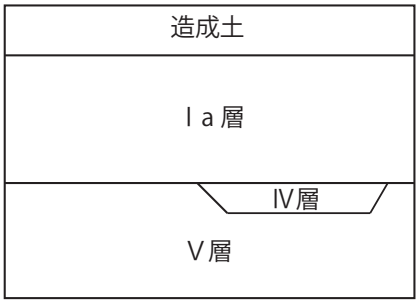
１号トレンチ東側では幅 2.3m ×深さ 1.0m の土坑が確認された。２号トレンチでは、幅約 3.0m × 深さ約 60㎝の東西に走る堀を確認した。３号トレンチでは、近世期の復旧溝が確認された。検出した遺構は平板測量を用いて遺構平面図と断面図を作成し、完掘状況の撮影を行った。全ての作業が終了した令和３年８月 27 日より埋め戻しを開始し、同日中に完了した。

第Ⅱ章　基本層序

安中城Ⅳの基本層序は安中市の基本層序に準じる。本遺跡では、表層にあたる現代の造成土を除去すると AS-A を含むⅠａ層（黒褐色土層）が確認できる。Ⅰａ層の堆積は浅く、深いところでも 30㎝程度である。Ⅰａ層の下層は部分的にⅣ層が確認できるが、大半の箇所ではⅤ層になる。遺構面はⅠａ層直下で確認した（第２図）。



第１図　安中城Ⅳ 調査位置図



第２図　安中城Ⅳ 基本層序

第Ⅲ章　遺構と遺物

1 号トレンチ

1 号トレンチは調査区東端より、東西方向に設定した。現地表は近現代の造成土であり、その直下に薄い黒色土層を確認した。黒色土の下層は地山であり、トレンチ全体を地山まで掘り下げた。

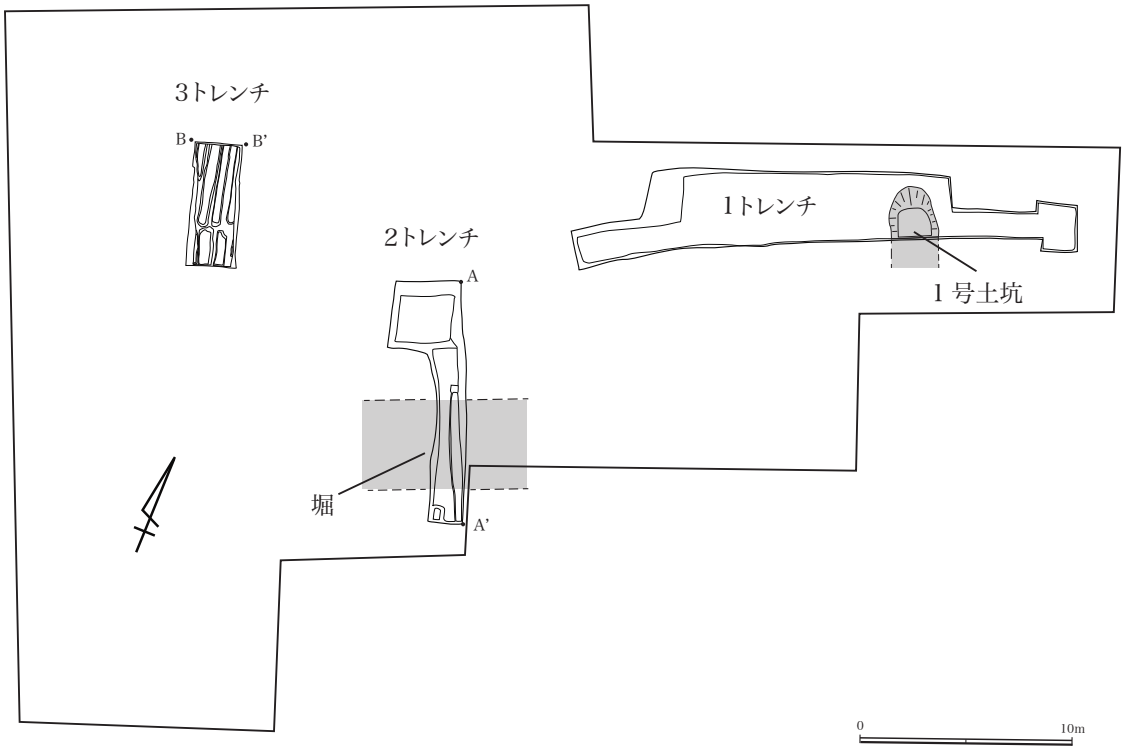
1 号トレンチでは、トレンチ東側で 1 号土坑を検出した。土坑北側はトレンチ内で完結しており、南側はトレンチ外へ伸長する。全容が定かではないため土坑とした。断面形は U 字形を呈する。

土坑に伴う遺物は検出されなかった。覆土は AS-A が混じる黒色土で、ほぼ単層である。時期を経ず埋没したものと考えられる。また、検出面付近では部分的に AS-A の二次堆積が確認された。これらのことから天明の浅間山の噴火後に埋め立てられた土坑であると考えられる。

2 号トレンチ

2 号トレンチは調査区中央南側南北方向に設定した。地表から 70㎝付近まで AS-A の二次堆積層が確認されており、トレンチ北側の下層からは人頭大ほどの礫が放り込まれる形で検出した。

AS-A の二次堆積層を抜いたところで、堀跡を確認した。堀は東西方向に伸長すると考えられる。堆積を見ると一定の厚さになる黒色土の上に薄くローム層を張り付けており、この工程が少なくとも 2 度にわたって行われていたことが分かる（4 層と 6 層）。覆土に軽石等の混入は認められなかったことから、AS-A 降下以前に、意図的に埋められた堀と推測される。

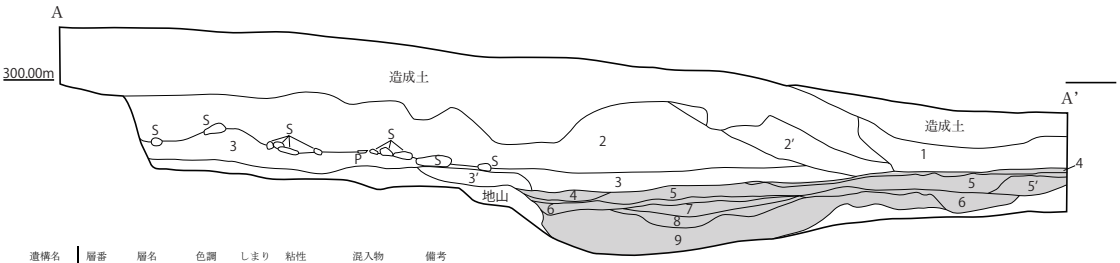


第３図　トレンチ配置図

3号トレンチ

3号トレンチは、調査区西側南北方向に設定した。地表下65㎝から、復旧溝が確認された。復旧溝は南北方向に掘られており、復旧溝の間にはAS-Aの二次堆積層が確認された。天明3年の浅間山の噴火に伴って降り積もった火山灰を除去するための天地返しであったと推測される。

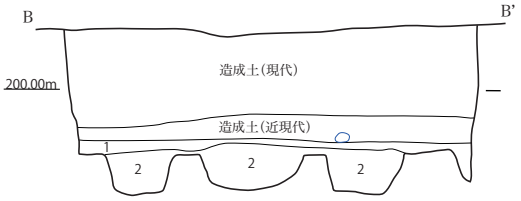
2号トレンチセクション



遺構名	層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物 RP	混入物 RB	混入物 As-A	備考
2トレンチ	1	黒褐色土層		○	○			△	
	2	灰白色土層		×	×				Ａｓ－Ａ二次堆積層
	2'	灰白色土層		×	×				Ａｓ－Ａ二次堆積層 黒色土が部分的に混じる
	3	黒褐色土層	3<1	○	◎		△		
	3'	黄褐色土層	3'<地山	○	◎				上層の黒色土がブロック状に混じる
	4	黄褐色土層		○	◎				下層の黒色土層の上面全体に薄くはられている層
	5	黒褐色土層		○	◎	△			
	5'	黄褐色土層							3層の土質と酷似
	6	黄褐色土層	6≒4	○	◎				
	7	黒褐色土層		○	◎				6層とほぼ同時期に入れられた土か
	8	黒褐色土層	8>7	○	◎				砂質土壌　水性堆積か
	9	黒褐色土層	9≒6	○	◎				

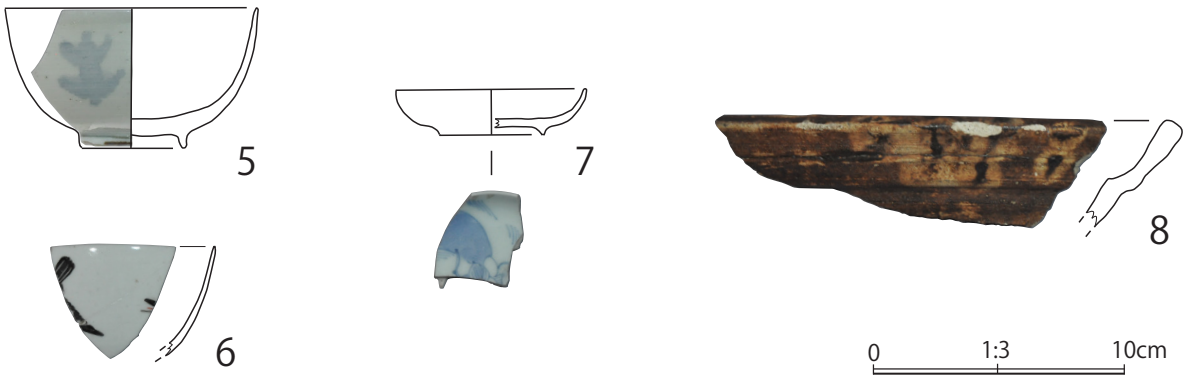
＝ 堀と埋立箇所

3号トレンチセクション



遺構名	層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物 RP	混入物 RB	混入物 As-A	備考
3トレンチ	1	黒色土層		◎	×				1mm程度の軽石が混じる
	2	白灰色土層		◎	×				黒土が多少混入している

第4図　2・3号トレンチセクション、安中城Ⅳ出土遺物（1）



第 5 図　安中城Ⅳ出土遺物（2）

第 1 表　安中城Ⅳ出土遺物観察表

No.	器種	出土位置	法量（cm）	備考
1	磁器 染付碗	1 号トレンチ　1 号土坑 覆土	口径：(3.5) 底径：－ 器高：<3.2>	口縁 1/3 残存
2	陶器 茶碗	1 号トレンチ　1 号土坑 覆土	口径：(3.5) 底径：－ 器高：<3.2>	胴下位～底部 1/2
3	瓦	1 号トレンチ　1 号土坑 覆土	縦：<12.8> 横：<7.8> 厚：<2.2>	破片
4	陶器 擂鉢	2 号トレンチ 3 層上面	口径：－ 底径：－ 器高：<7.9>	口縁部破片
5	磁器 染付碗	2 号トレンチ 3 層	口径：(10.0) 底径：(4.1) 器高：5.5	口縁～底部 1/6
6	磁器 染付碗	3 号トレンチ 1 層直下	口径：－ 底径：－ 器高：<4.6>	口縁部破片
7	磁器 染付小皿	3 号トレンチ 1 層直下	口径：(7.6) 底径：(4.0) 器高：1.8	1/4 残存
8	陶器 鉢か擂鉢	3 号トレンチ 2 層	口径：(31.8) 底径：－ 器高：<4.2>	口縁部破片 内面に凹凸がみられないものの口縁の形状から擂鉢の可能性もある

第Ⅳ章　まとめ

今回の調査では、中・近世安中城の様相を明らかにすることができた。1 号トレンチでは、当初、本丸西側の堀が検出されるとみていたが、明確に該当する遺構は確認できなかった。かろうじて第 1 トレンチの 1 号土坑が近いものとなるが、土坑北側で完結してしまっている点に問題がある。山崎一氏による安中城の縄張り図には、本丸を区画する堀には戸口が設けられていることが描かれており、昭和 62 年の文化センター建設時に、それらの遺構が確認できたことが言及されている（山崎 1972、1988）。

山崎の言を踏まえれば、1 号トレンチで検出した土坑北側の完結部分は戸口の部分であり、土坑ではなく本丸区画の堀であった可能性が高い。

2 号トレンチでは東西方向に伸長すると推定される堀跡を検出した。江戸中期（内藤氏時代：1702～ 1749 年）の「上野国安中城絵図」をみると、本発掘調査で確認された堀の位置には古堀が存在している。2 号トレンチで確認された堀は、江戸中期の絵図にある古堀に該当する可能性が高い。

3 号トレンチで検出した復旧溝は、AS-A の二次堆積層によって覆われていたことから、少なくとも天明 3 年（1783 年）以降に掘削されたものとわかる。本遺構を検出した場所は、江戸中期から明治時代までの絵図を見る限り、本丸西側の緩衝地帯となっている。江戸中期から後期の安中城絵図では雑木林と記載されており、江戸後期のある段階から明治期の安中城絵図においては畑地となっている。この

ことから、本遺構は雑木林から畑地へと転換された後の遺構であると判断でき、天明３年（1783 年）の浅間山噴火によって降り積もった火山灰から畑地を復旧する目的で掘削された遺構とわかる。また、こうした状況からみて、雑木林から畑地への転換が天明３年を前後する時期に行われていたことが想定される。

以上、本調査では中・近世安中城の本丸西側の様相の一端を明らかにすることができた。紙面の都合で、根拠となる各時代の安中城図を提示できなかった点については、下記参考文献を提示することでご容赦願いたい。１号トレンチで検出した土坑の機能については、今後の課題としておく。

【参考文献】

安中市学習の森ふるさと学習館 2014『城絵図にみる上州の戦国時代 －富原文庫所蔵城絵図の世界－』
山崎一 1972『群馬県古城塁址の研究』下巻 群馬県文化事業振興会
山崎一 1988「3. 西群馬の中世城館跡」『群馬県の中世城館跡』群馬県教育委員会

１号トレンチ 全景（東から撮影）

１号トレンチ １号土坑（北から撮影）

２号トレンチ 堀跡（南から撮影）

３号トレンチ 復旧溝（南から撮影）

発掘報告書　抄録

ふりがな	あんなかじょう よん
書名	安中城Ⅳ
副書名	安中市文化センター駐車場増設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
巻次	
シリーズ番号	
編集者名	鳥居貴庸
編集機関	安中市教育委員会
編集機関所在地	379 - 0292　群馬県松井田町新堀469-1　TEL 027 - 382 - 7622
発行年月日	西暦2022（令和3）年3月22日

所収遺跡	所在地	コード		北緯 ° ′ ″	東経 ° ′ ″	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号（略称）					
安中城Ⅳ	安中市安中三丁目字西町113	102113	1518（D-34）	36° 19′ 48″	138° 53′ 41″	20210823～20210827	100㎡	駐車場増設工事

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
安中城Ⅳ	城館跡	中世	堀		天明3年（1783）の浅間山の噴火以前の堀跡が確認された。近世安中城図と照らし合わせると、古堀と記載されている位置と一致している。中世期に掘削された堀である可能性が考えられる。
		近世	畑 土坑（堀？）	陶磁器、瓦	調査区東側で確認された土坑であるが、南側が調査区外であったため、伸長して堀であった可能性が残る。安中城図では当該箇所に堀が南北に巡っていたことが描写されており、土坑が堀の一部あった可能性が考えられる。

（要約）
本遺跡では、中世の堀跡（推定）と近世の土坑（堀か）、畑跡を検出した。調査区は安中城の絵図から見る限り本丸の西側に該当する。絵図では当該地に南北に巡る堀と畑が存在していたことが描かれている。今回検出した遺構を見ると、こうした絵図の状況とおおむね一致しており、中・近世安中城の西側の様相の一旦を明らかにすることができた。

安中城Ⅳ
－ 安中市文化センター駐車場増設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告 －

令和４年３月18日　印刷
令和４年３月22日　発行

編集・発行 /安中市教育委員会
〒379-0292　群馬県安中市松井田町新堀 469-1
TEL 027-382-1111(代表)
印　　刷 /上毎印刷工業株式会社